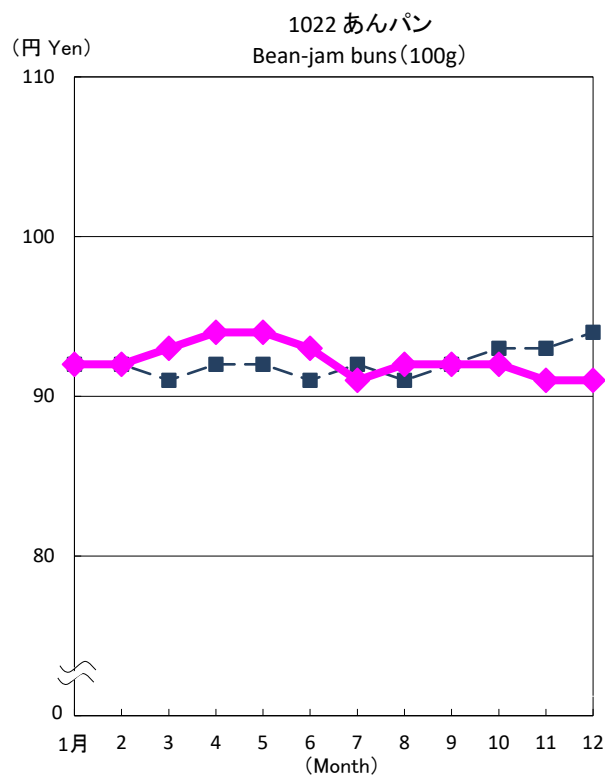
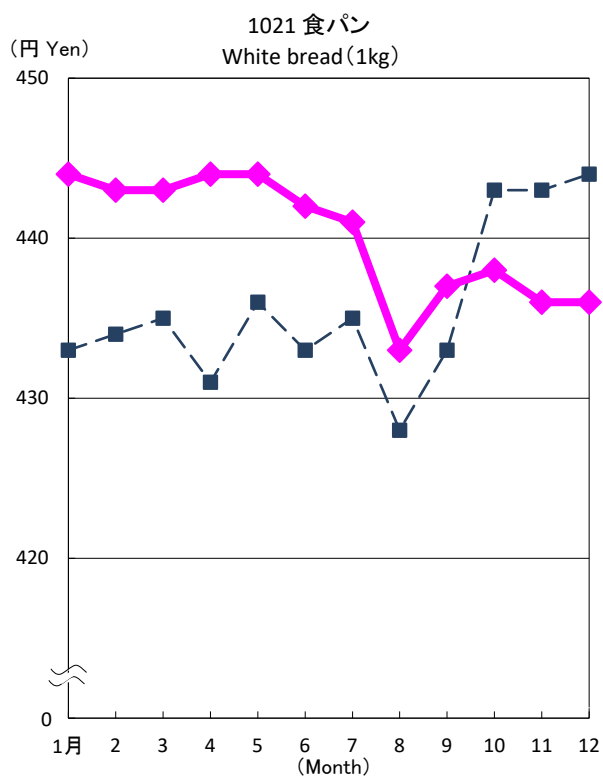
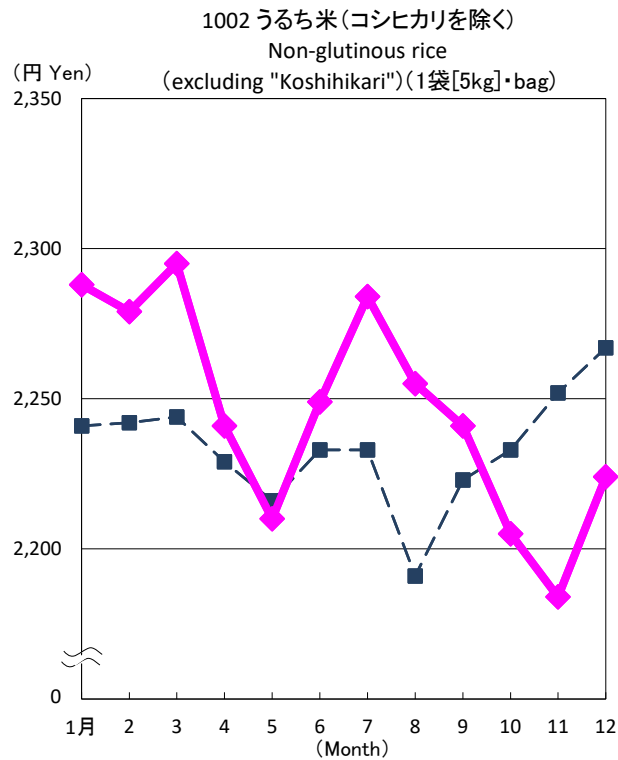
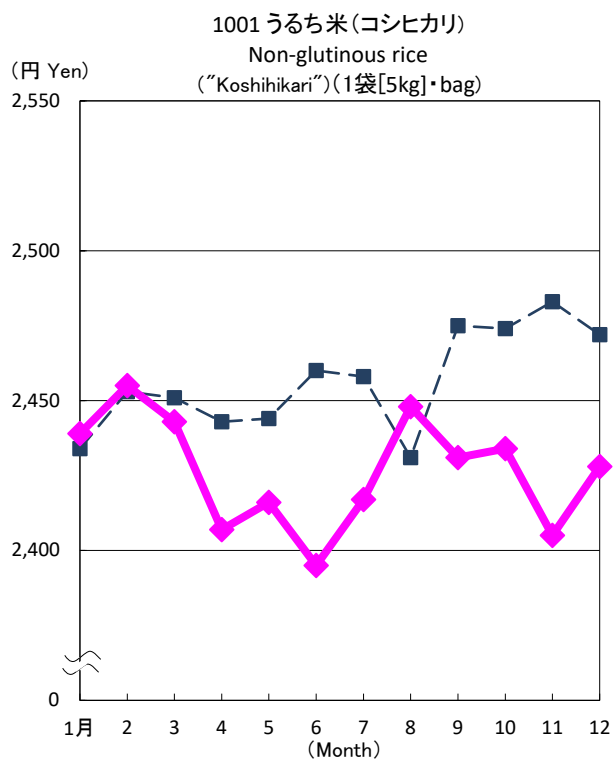


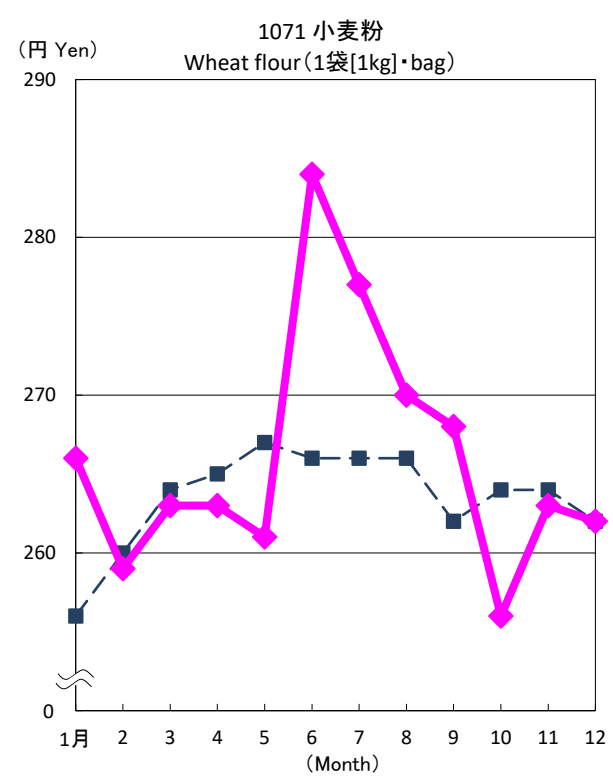
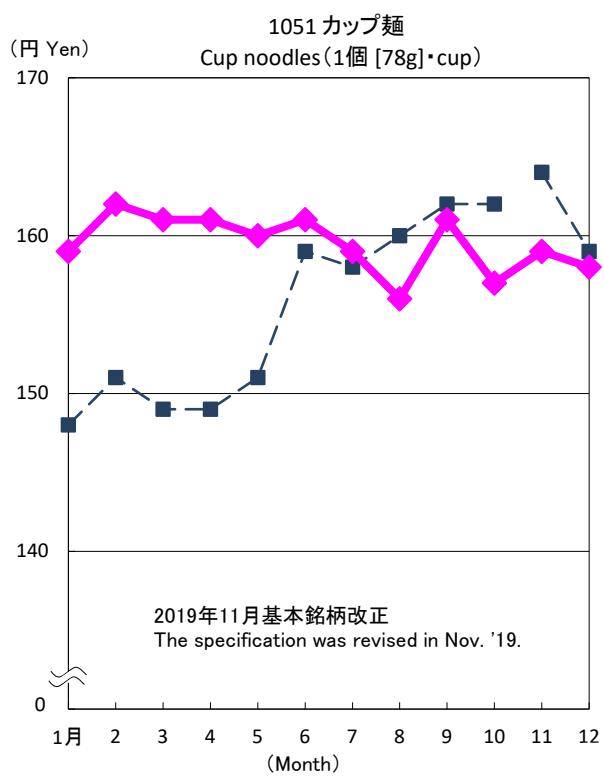
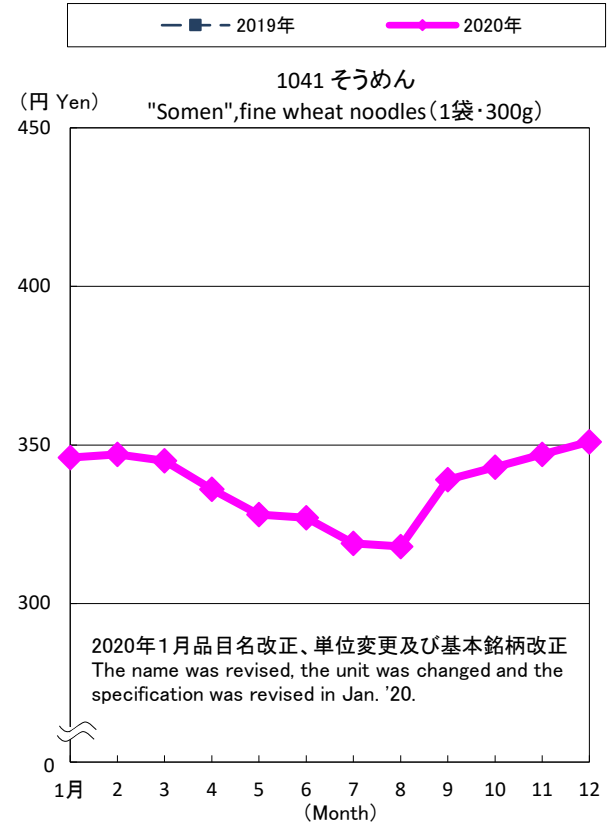
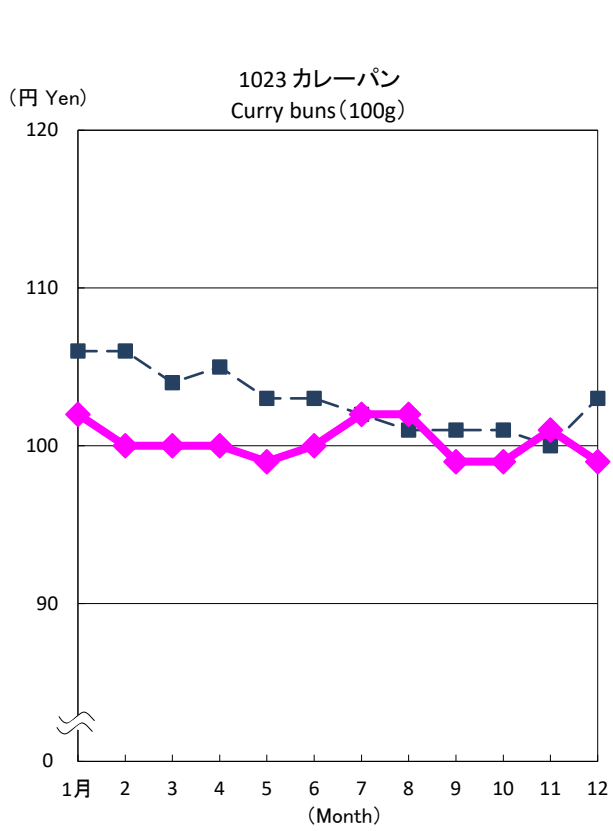
動-I 小売価格の動き-東京都区部-

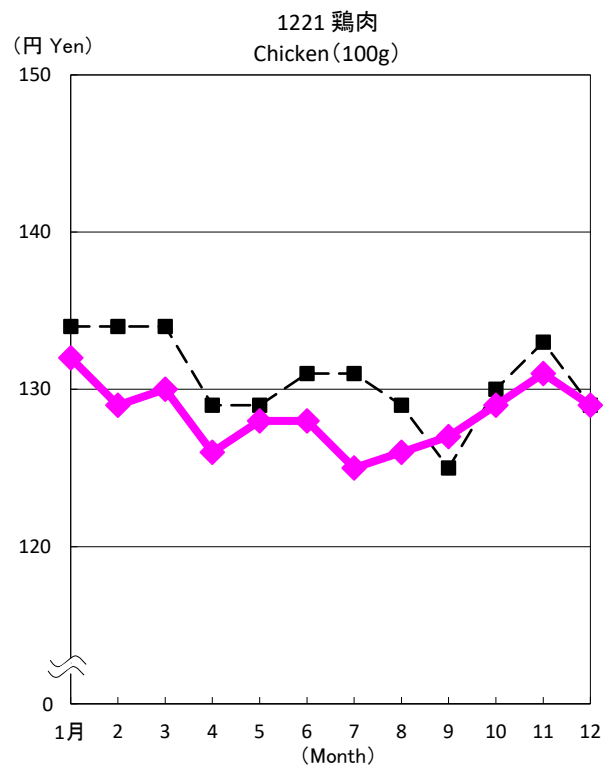
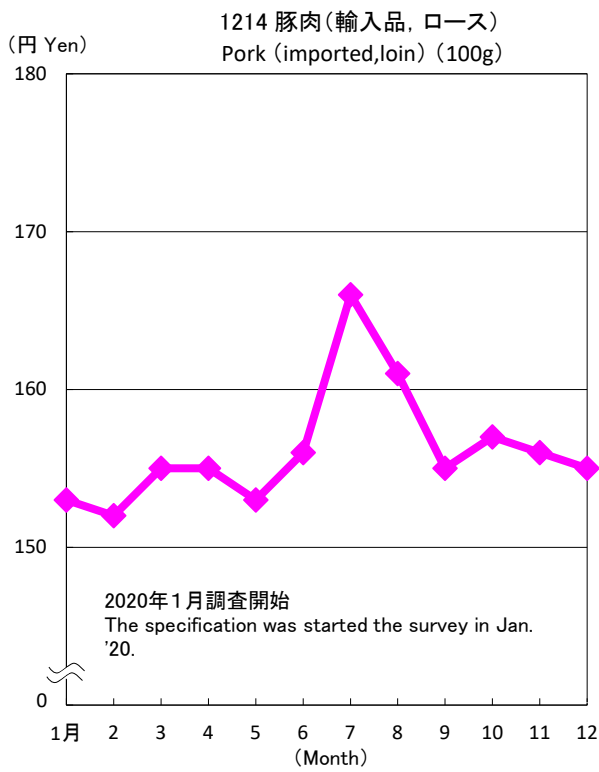
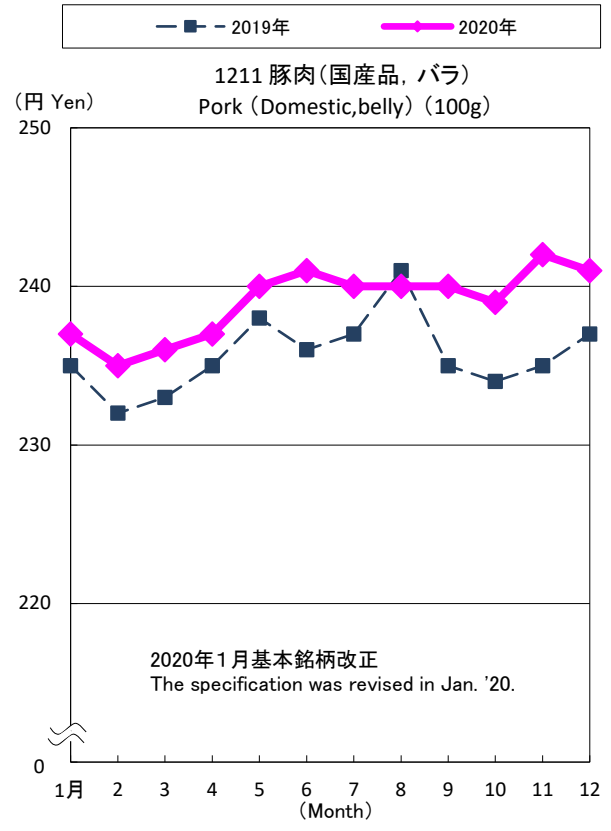
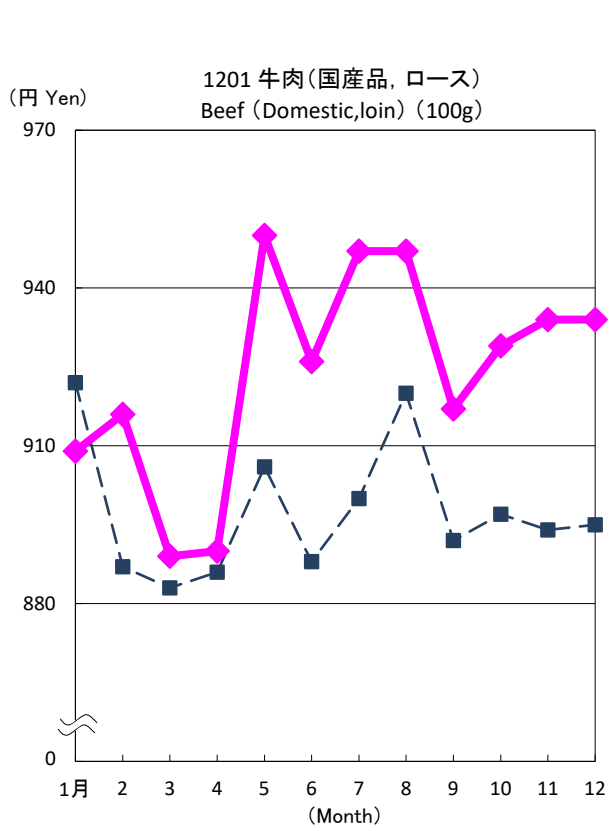
T- I Changes in Retail Prices -Ku-area of Tokyo-

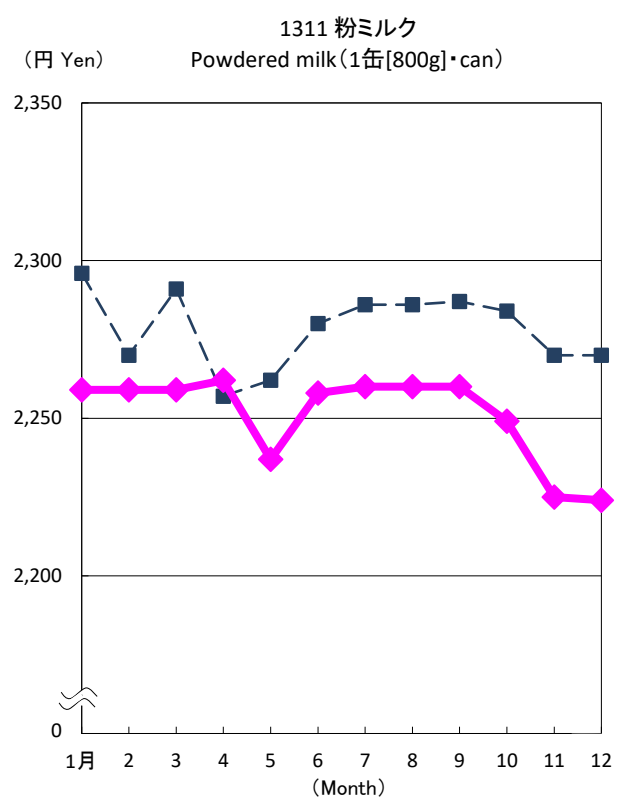
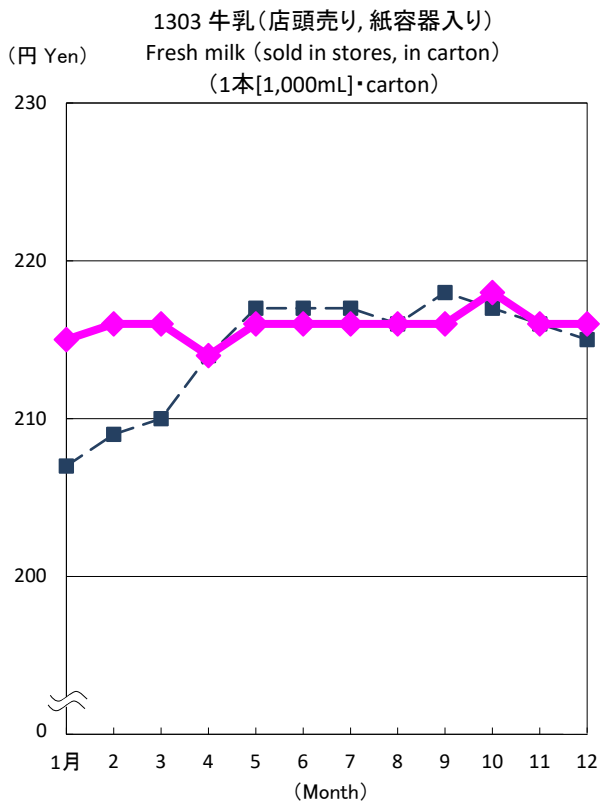
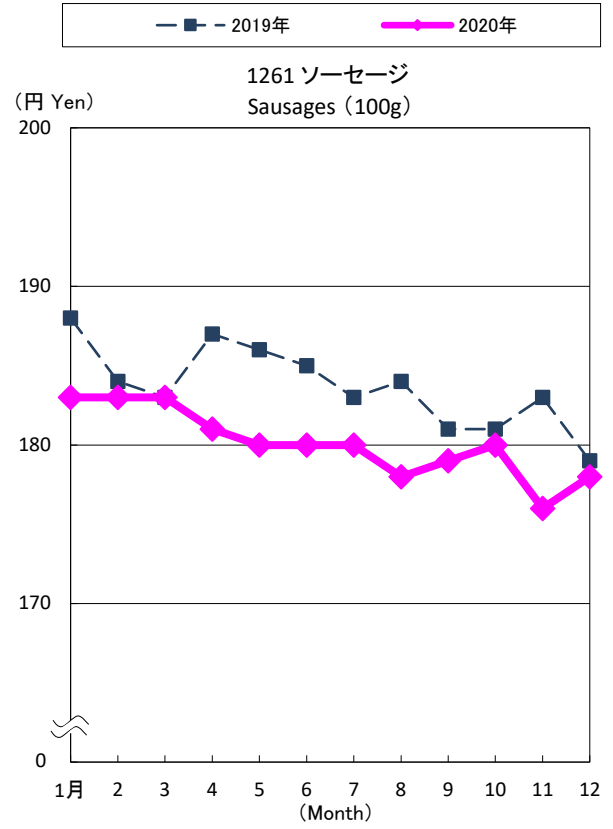
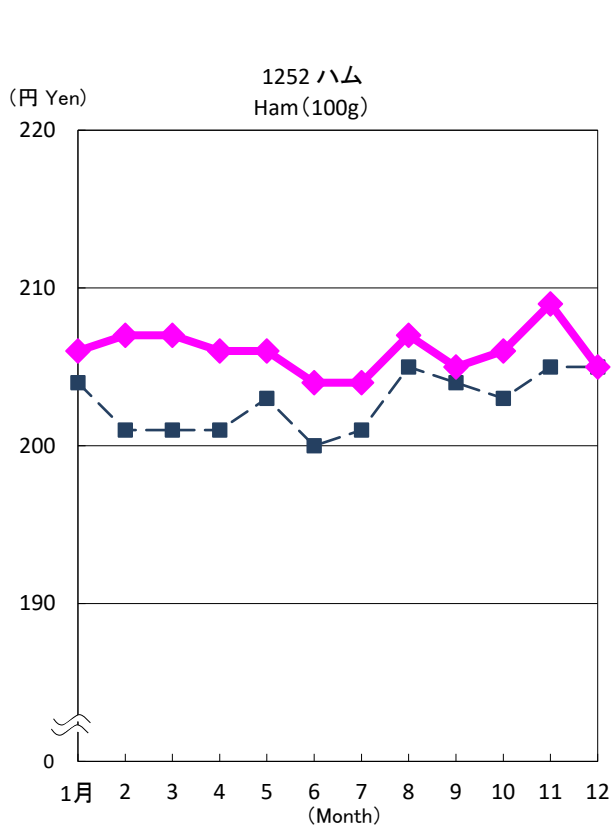
食料、光熱・水道等の56品目について、東京都区部における月別小売価格の動きを2019年と2020年とで比較する。

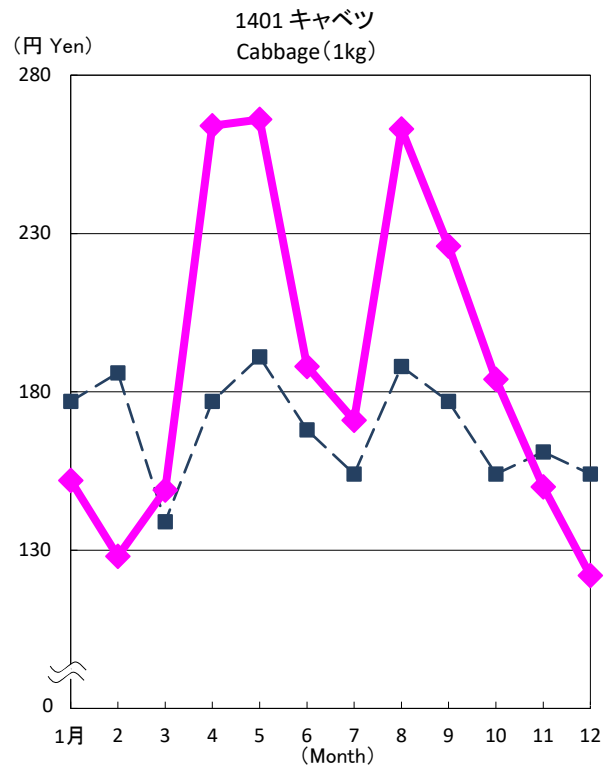
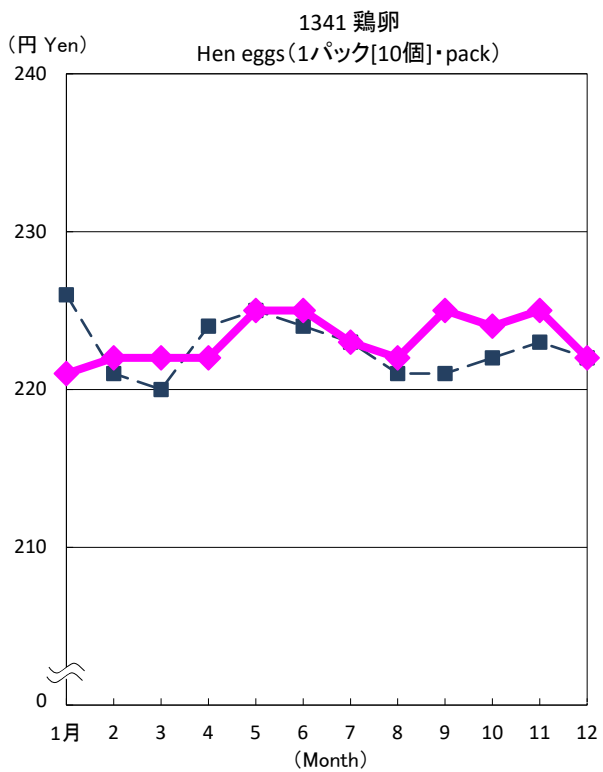
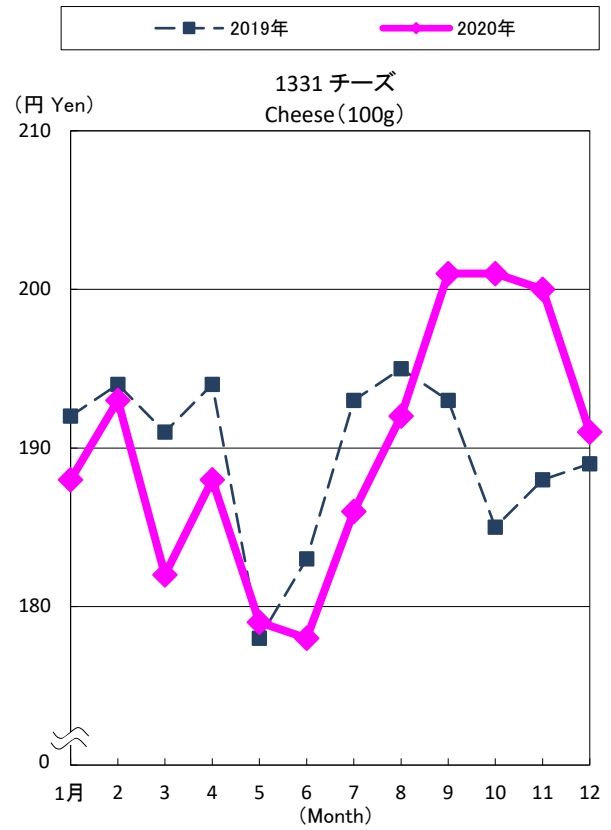
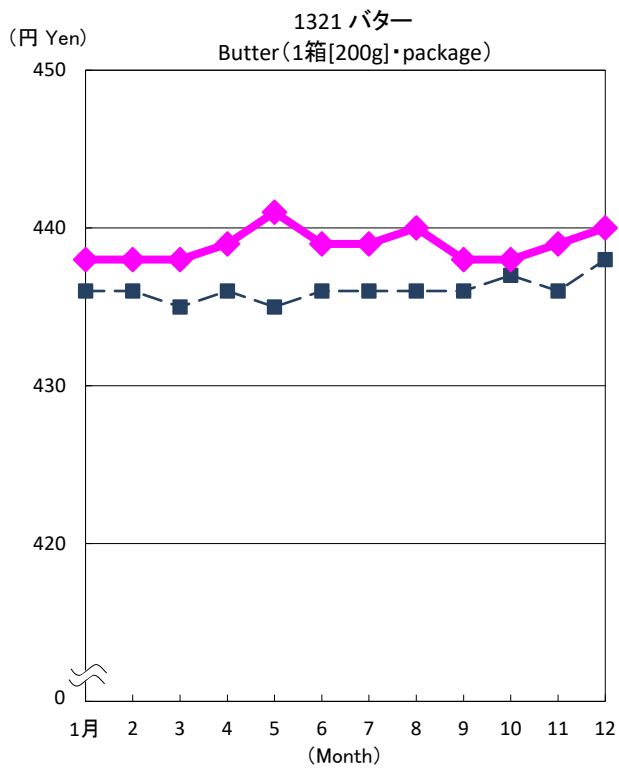
The following graphs compare trends in monthly retail prices in 2019 and 2020 for 56 items, including “Food”, “Fuel, light and water charges” in Ku-area of Tokyo.

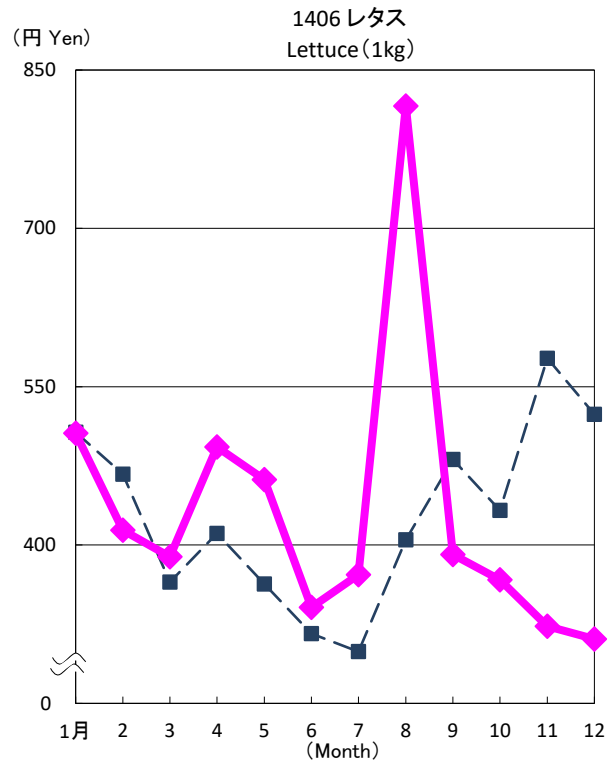
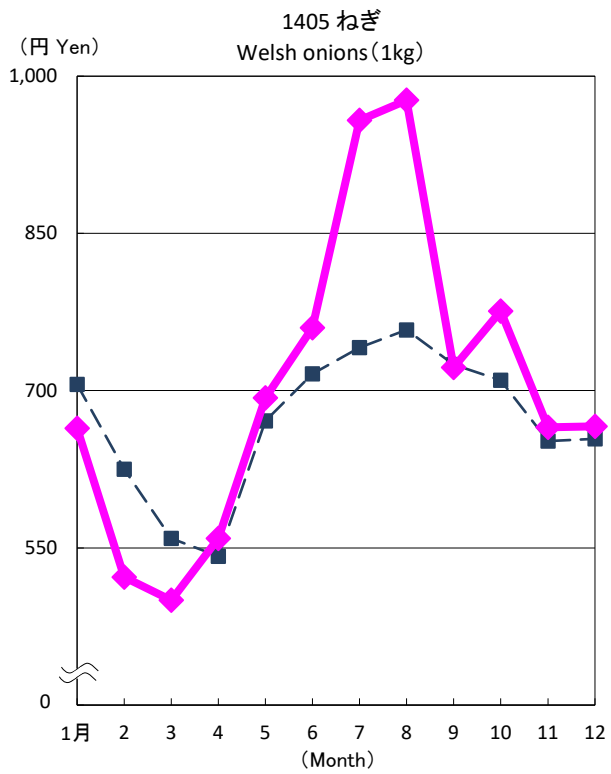
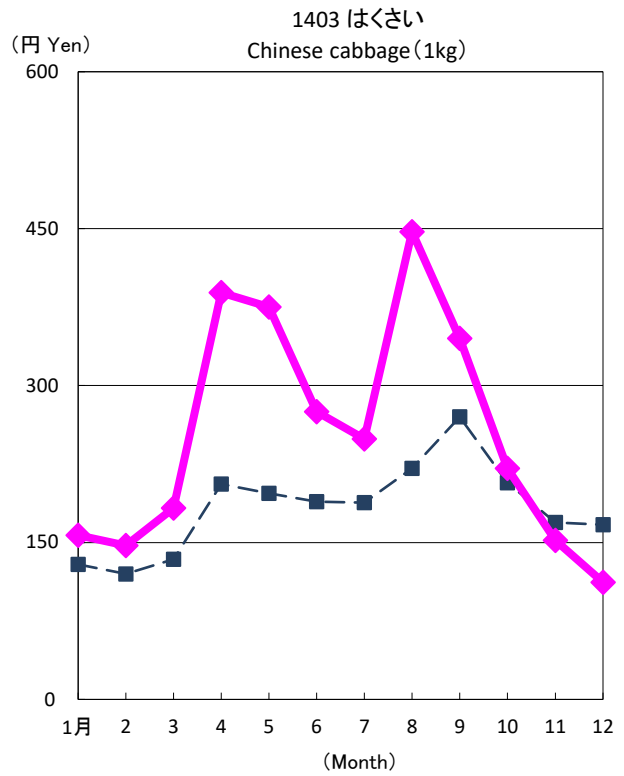
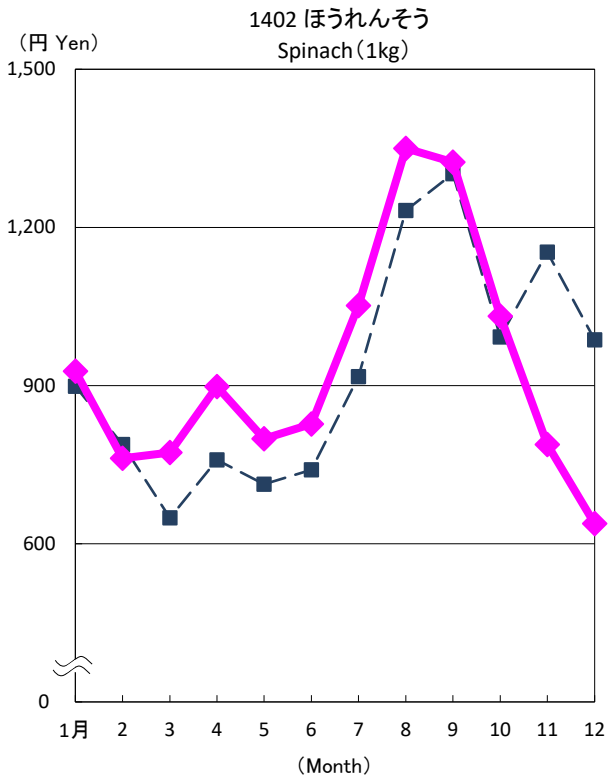




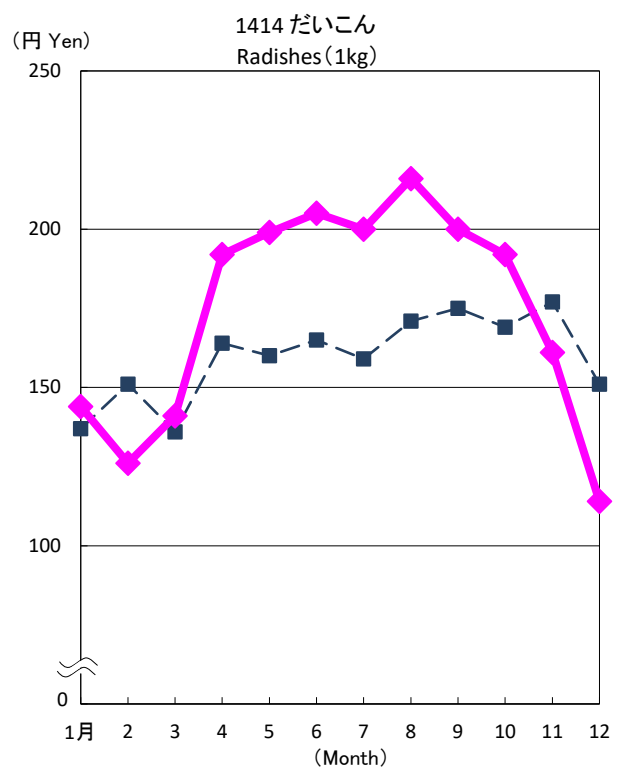
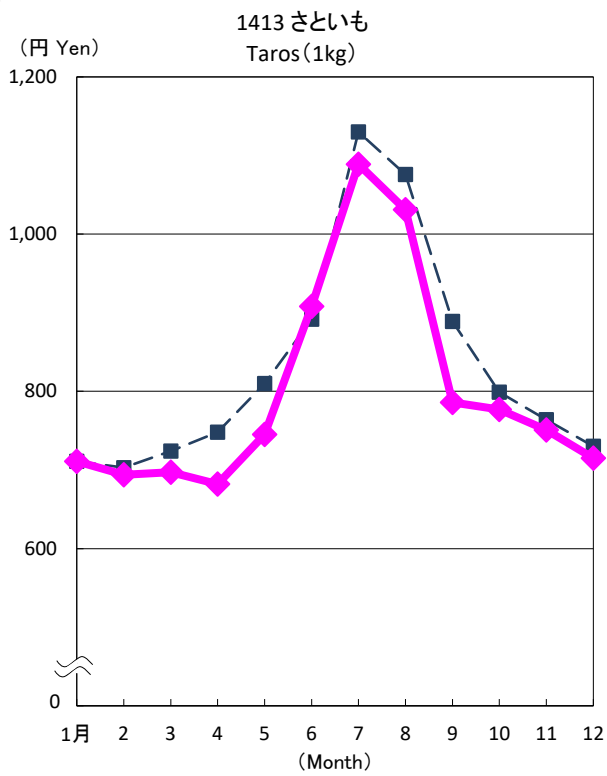
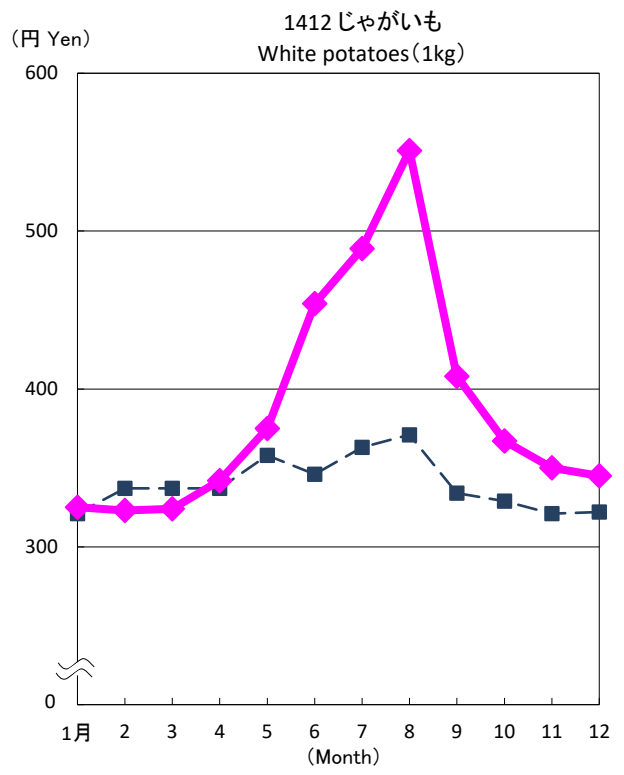
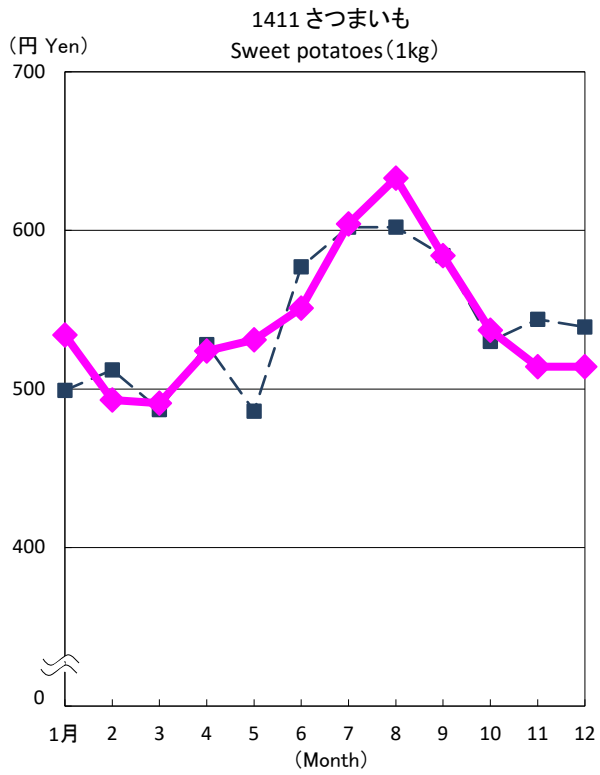


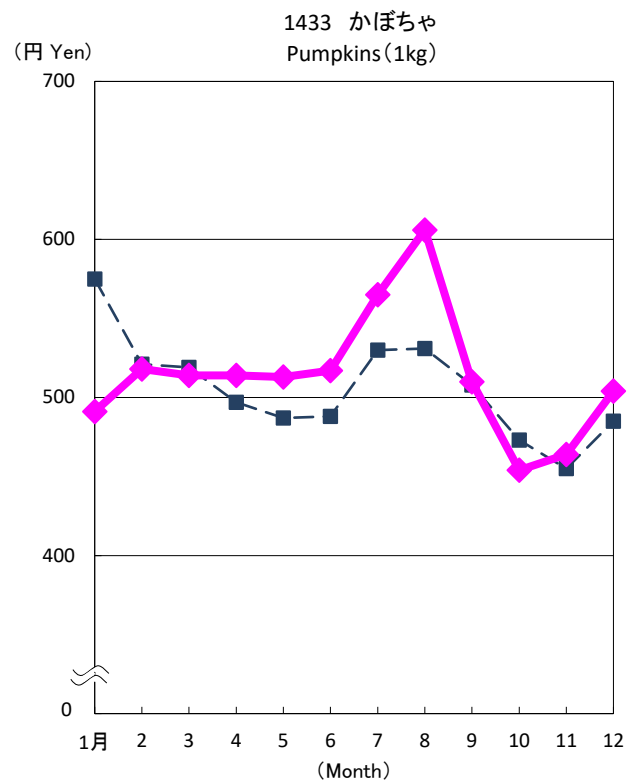
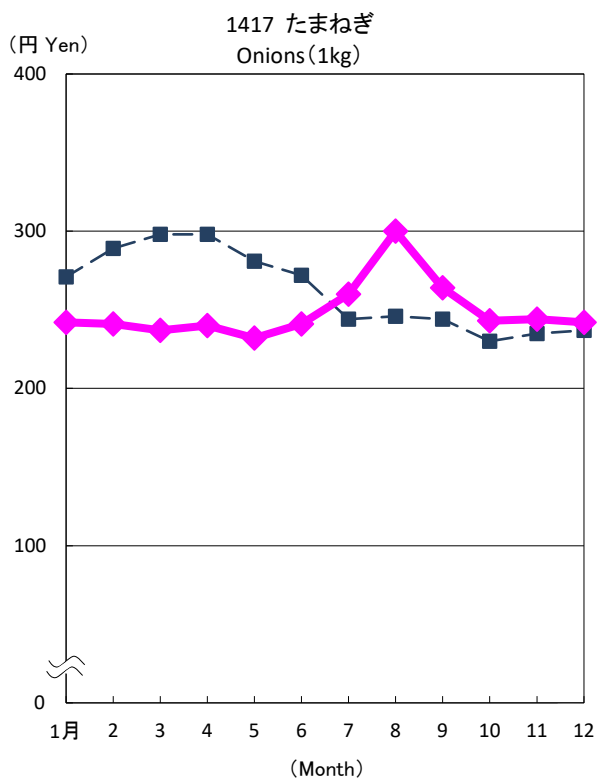
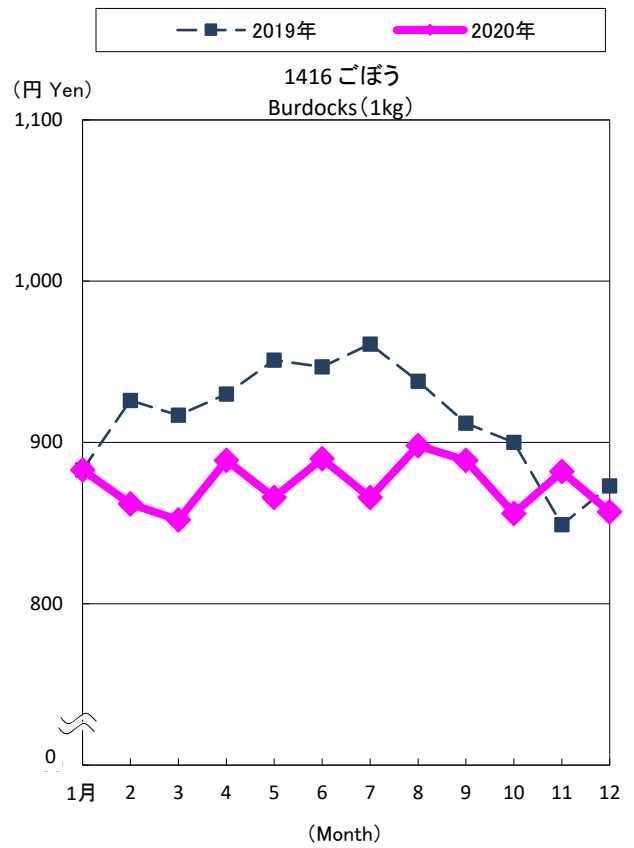
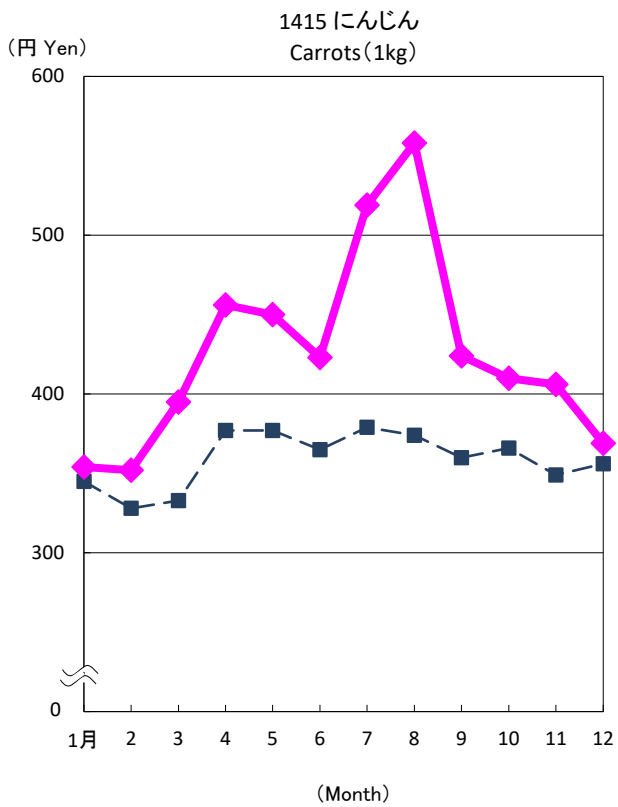


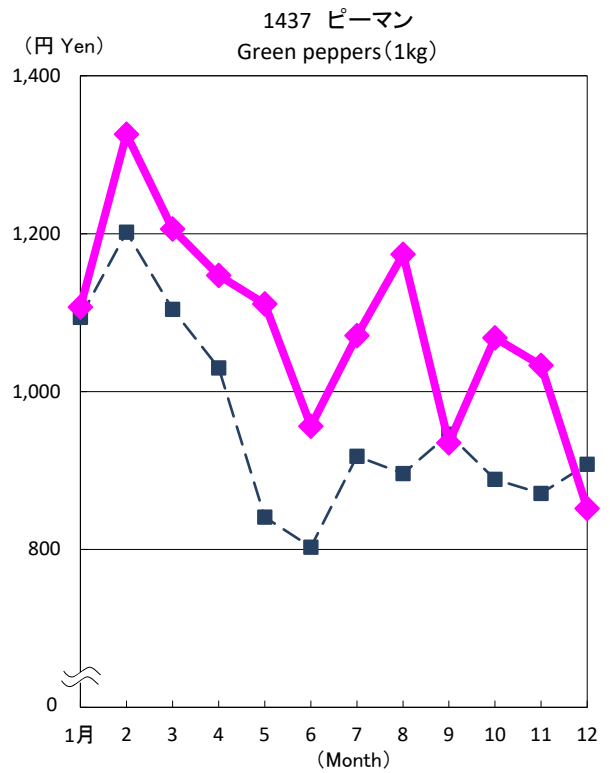
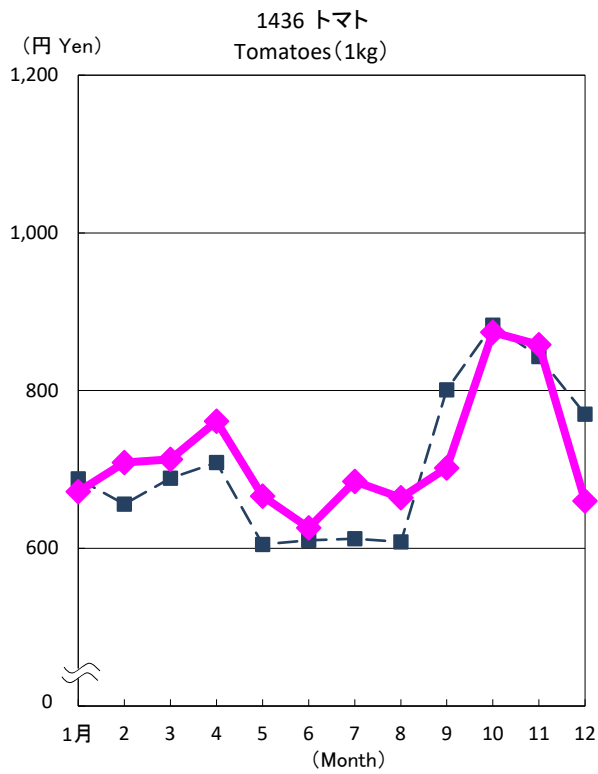
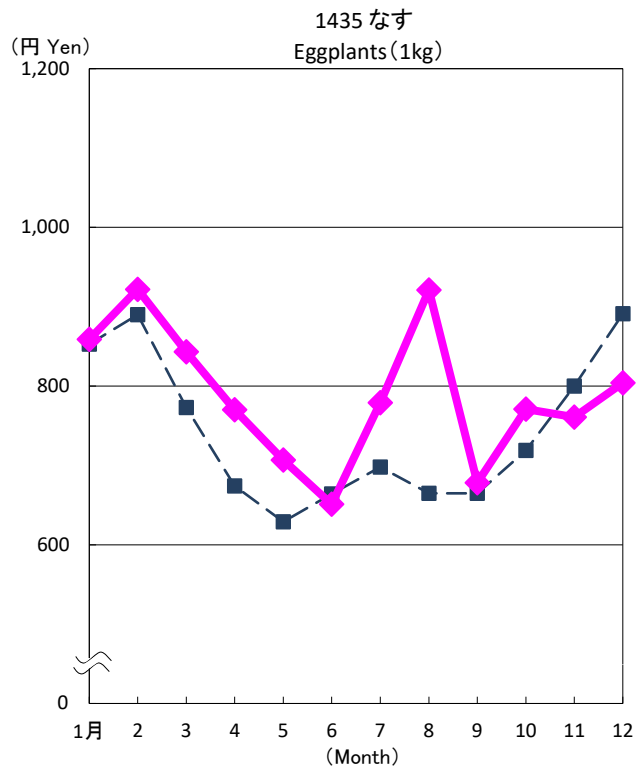
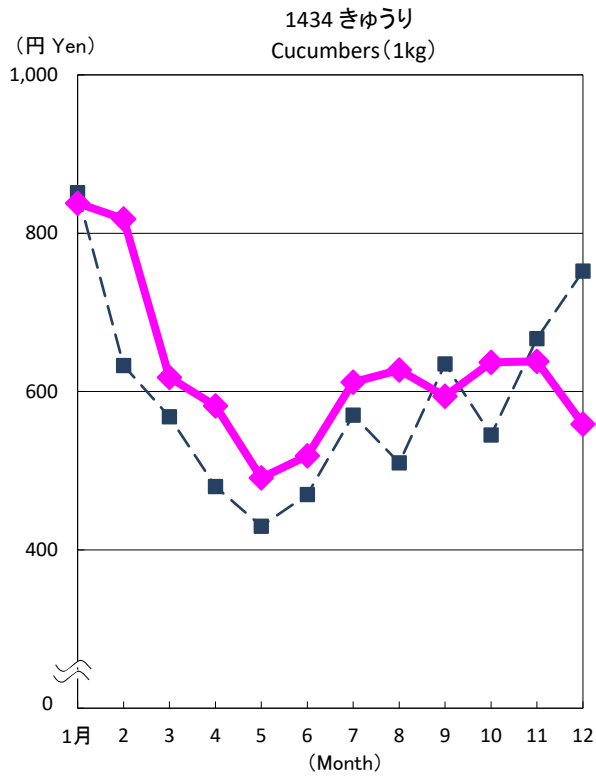


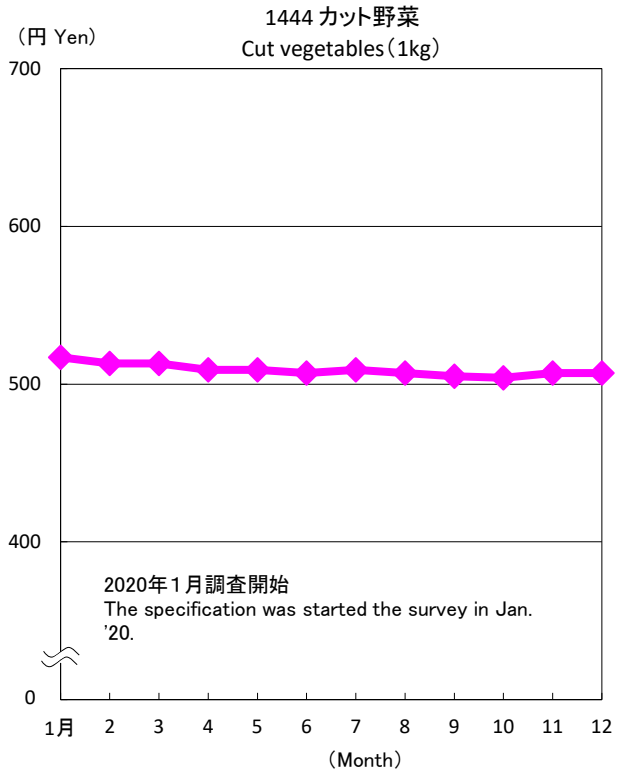
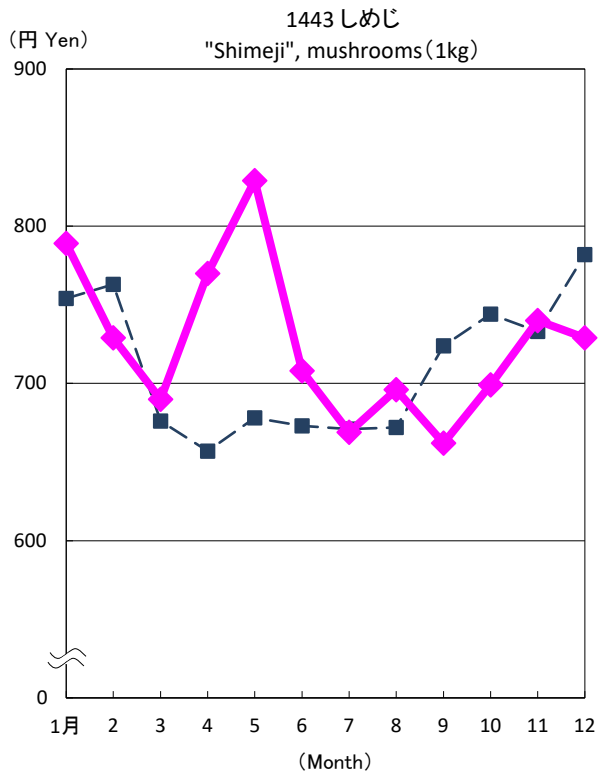
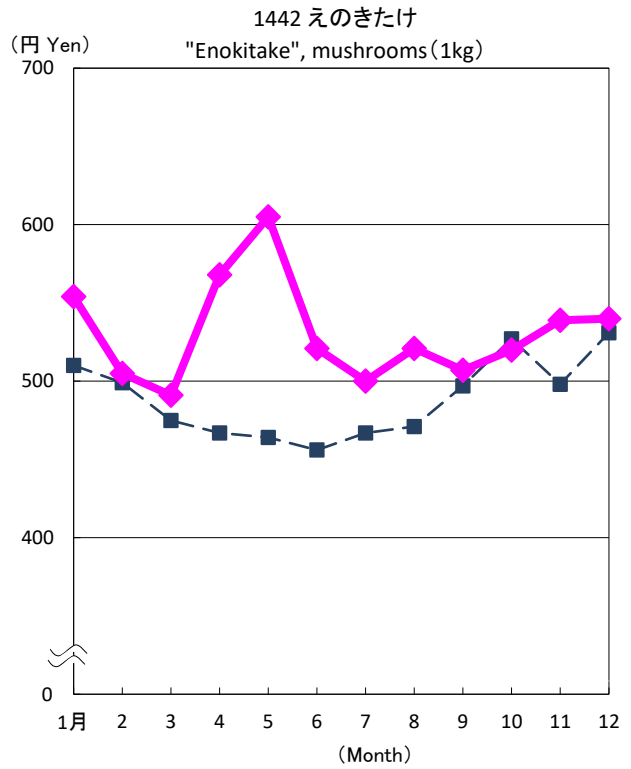
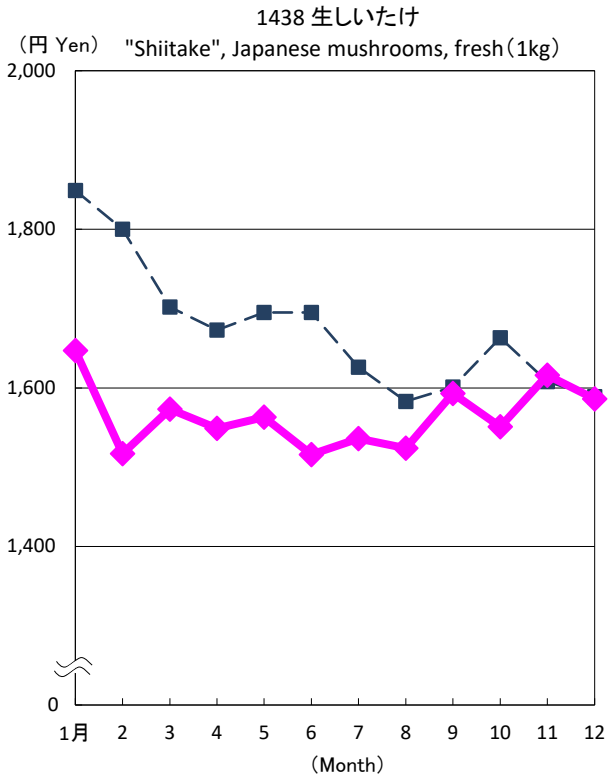


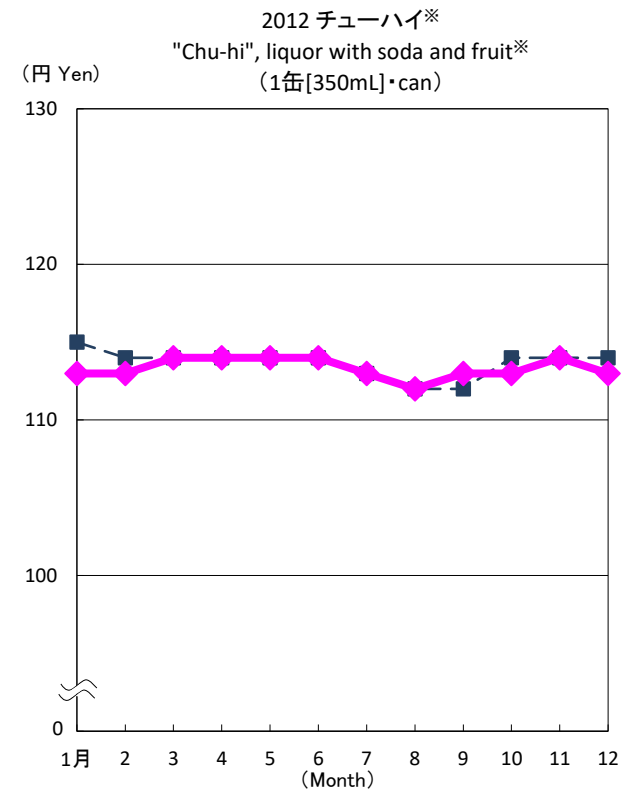
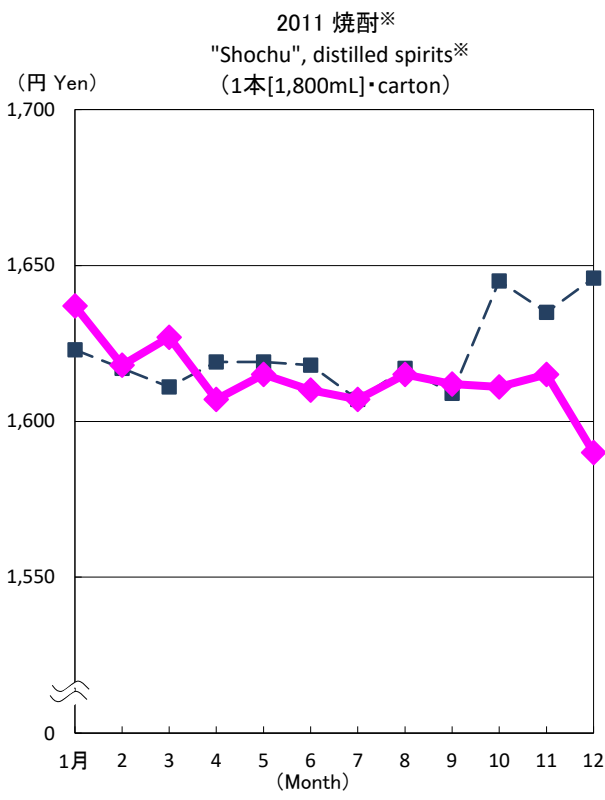
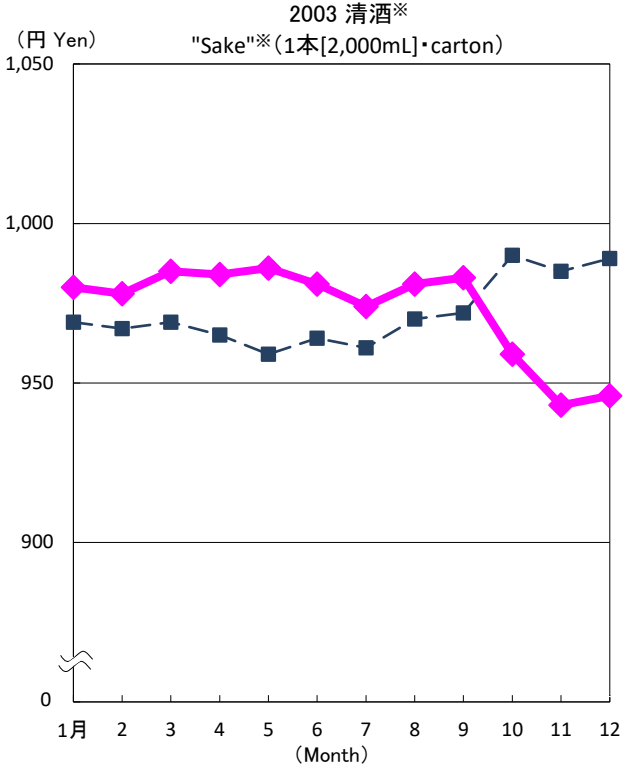
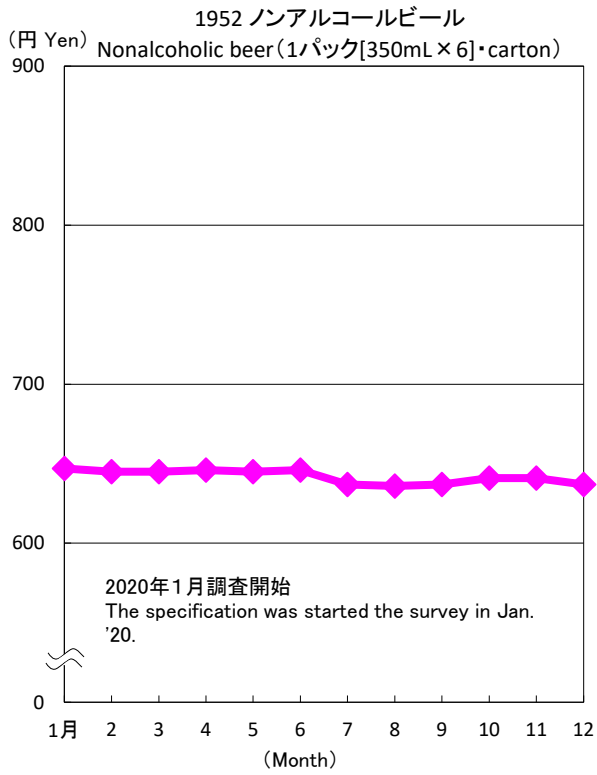
—■— 2019年 —◆— 2020年



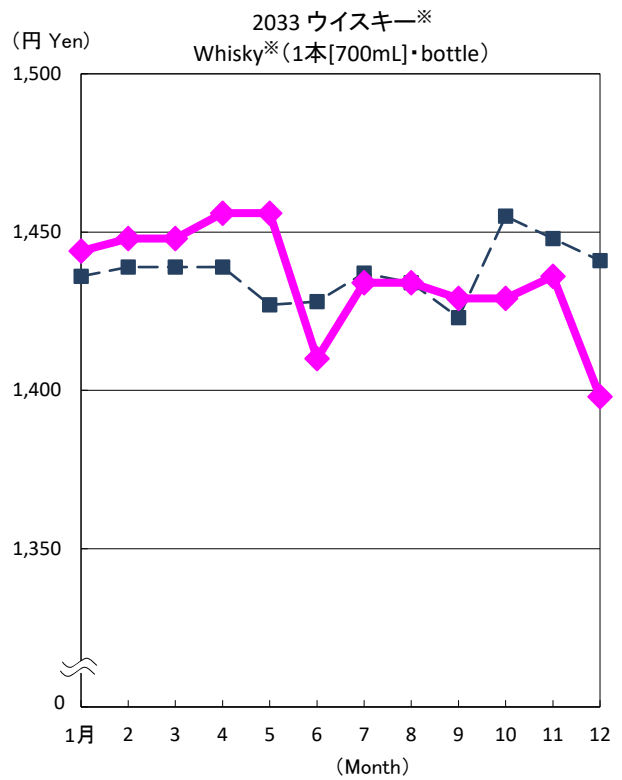
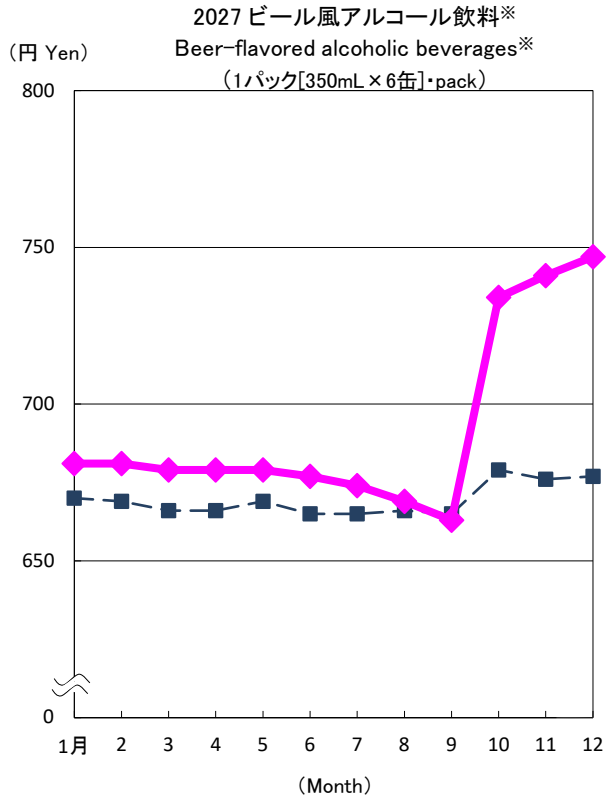
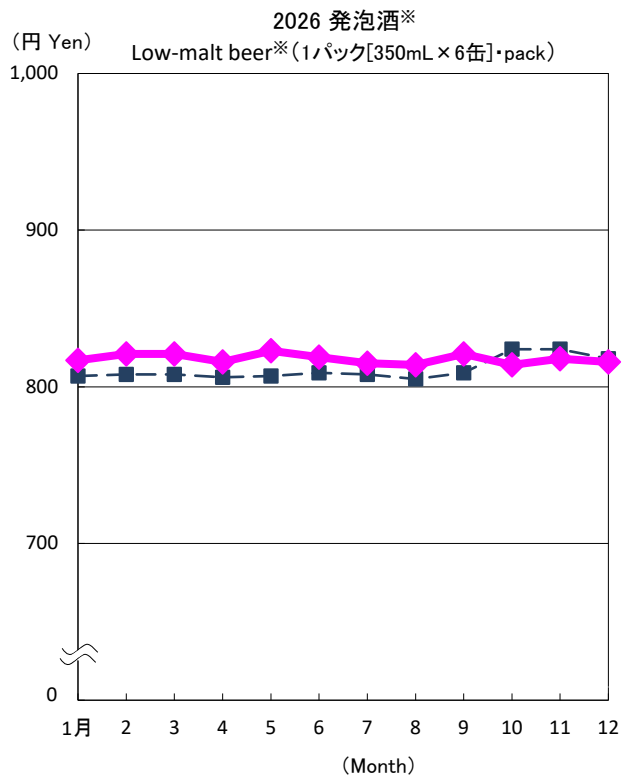
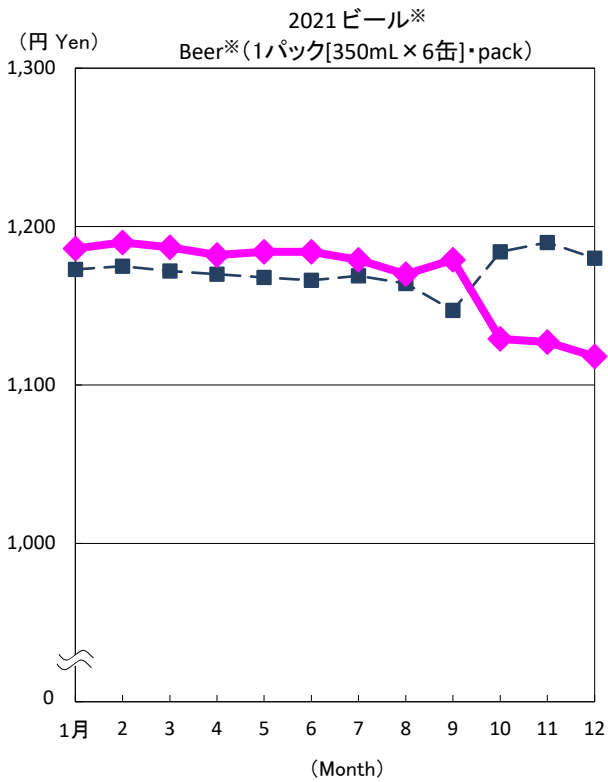




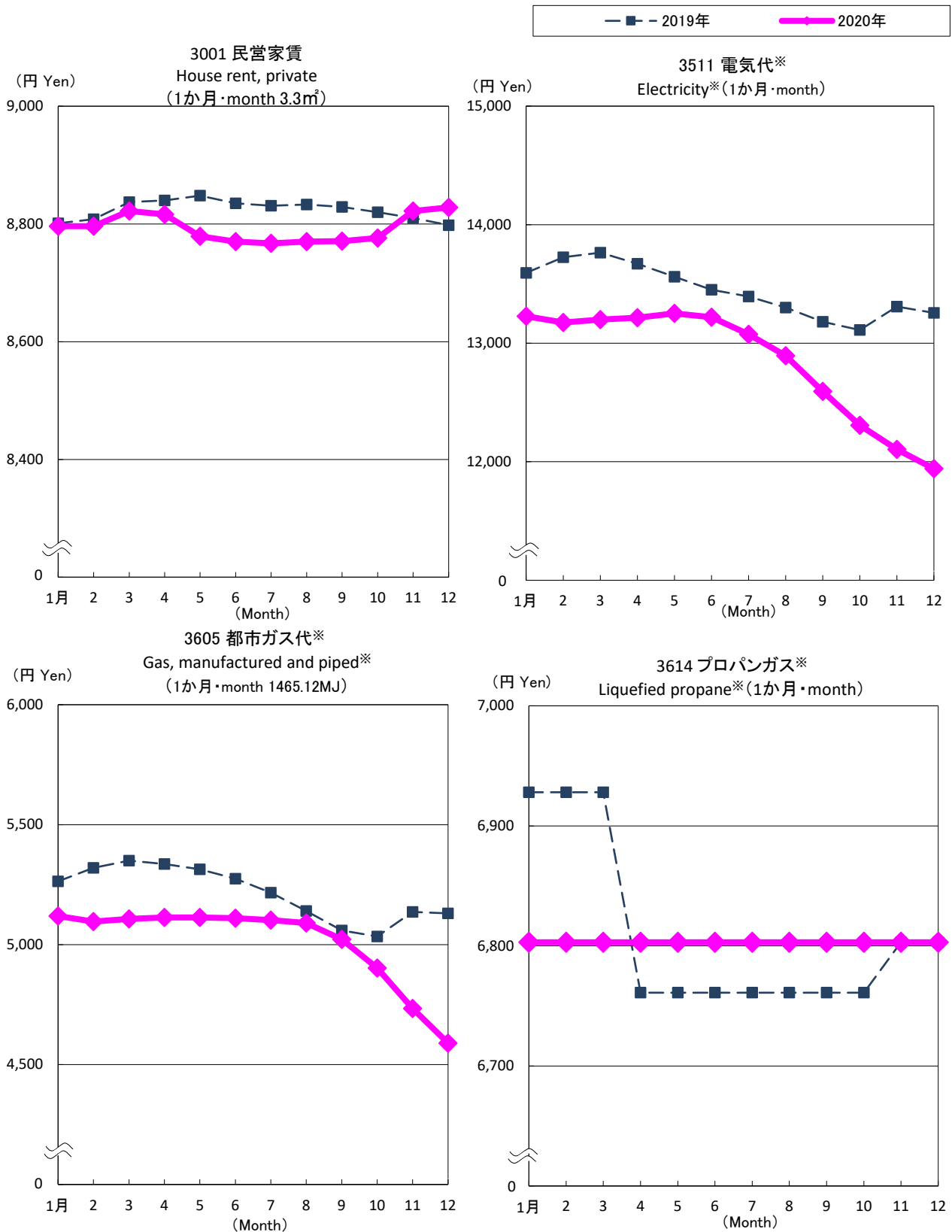




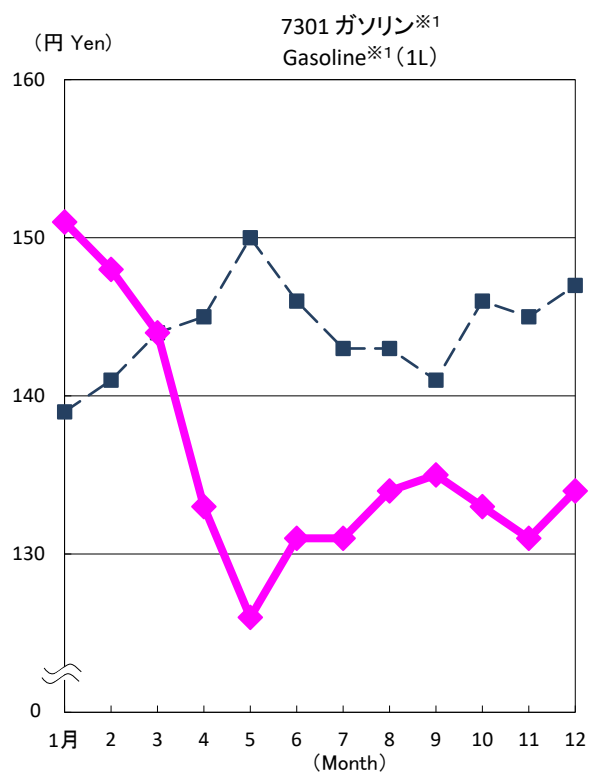
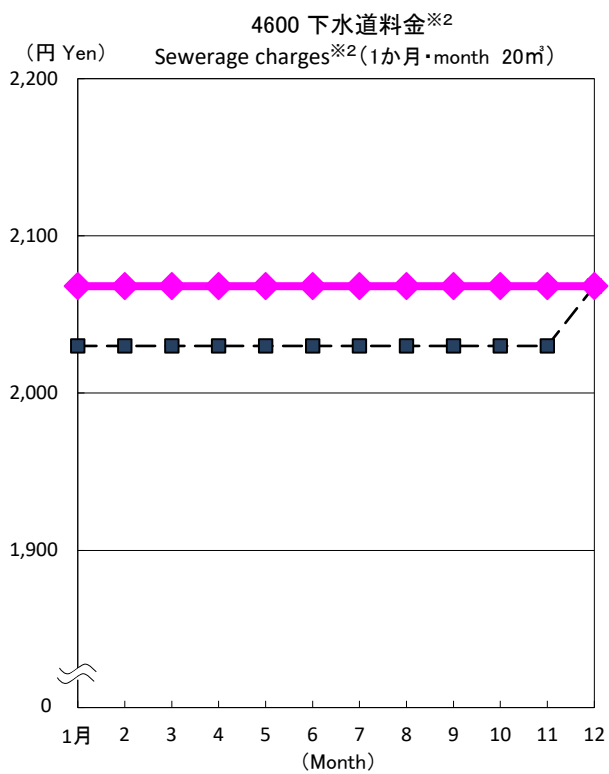
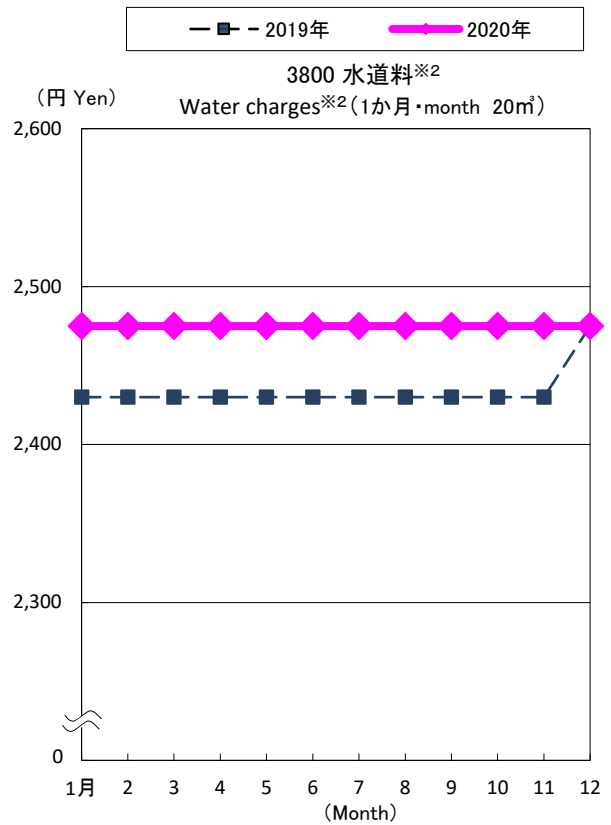
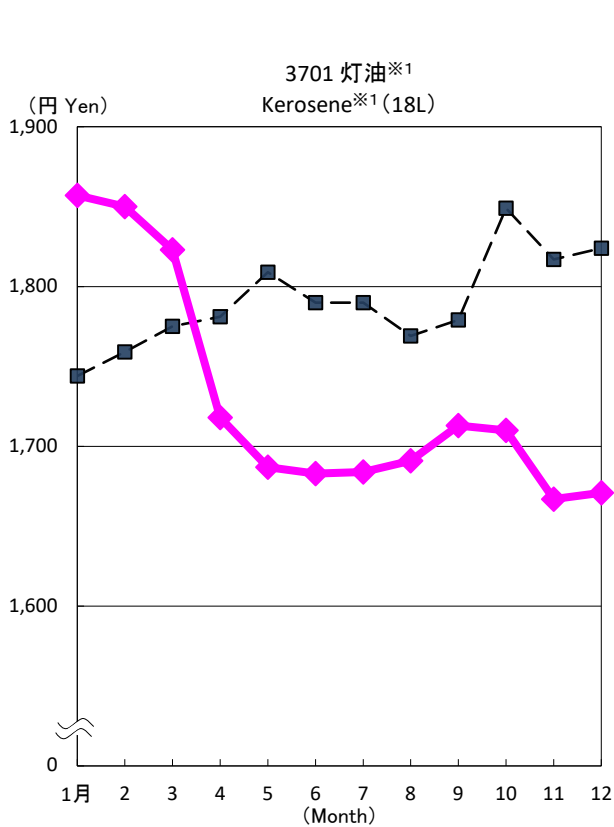
※ 2019年10月1日消費税率引上げ（8%→10%）品目
On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%).



※ 2019年10月1日消費税率引上げ(8%→10%)品目
On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%).



※ 2019年10月1日消費税率引上げ（8%→10%）品目（税率引上げ経過措置適用品目）
 On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%), with transitional measures.



※1 2019年10月1日消費税率引上げ(8%→10%)品目
On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%).

※2 2019年10月1日消費税率引上げ(8%→10%)品目(税率引上げ経過措置適用品目)
On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%), with transitional measures.

【動向編コラム1】 エネルギー関連の価格動向

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により原油や石油ガス類の需要が世界的に落ち込み、輸入価格が下落しました。そこで、これらの輸入価格及び関連する品目（「ガソリン」及び「都市ガス代」）の小売価格（東京都区部）について、2020年における動向を確認することにします。

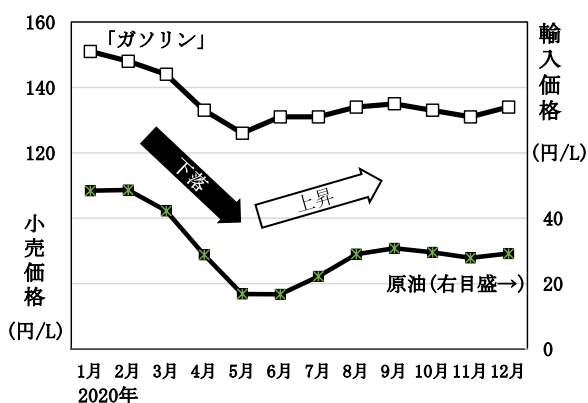
原油の輸入価格及び原油を元としている「ガソリン」の小売価格をみると、共に2020年2月から5月まで大きく下落した後に9月まで緩やかな上昇傾向となっており、価格が連動している状況がうかがえます。

(図1)

次に、石油ガス類の輸入価格及び石油ガス類を元としている「都市ガス代」の小売価格をみると、石油ガス類の輸入価格が6月から9月にかけて下落している一方で、「都市ガス代」の小売価格は9月以降下落しています。これは、「都市ガス代」の小売価格には、石油ガス類の輸入価格の3か月から5か月前までの平均価格が3か月後に適用される制度（原料費調整制度）があることによるものです。

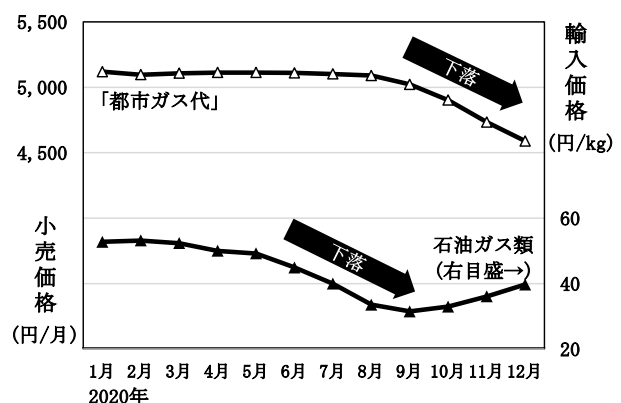
(図2)

図1 「ガソリン」の小売価格（東京都区部）及び原油の輸入価格（2020年1月～12月）



「ガソリン」：1L，レギュラーガソリン，セルフサービスを除く

図2 「都市ガス代」の小売価格（東京都区部）及び石油ガス類の輸入価格（2020年1月～12月）



「都市ガス代」：一般家庭用，1465.12MJ

出典：小売物価統計調査（動向編）東京都区部の平均価格（総務省統計局），貿易統計 CIF輸入価格（財務省）

以上のことから、エネルギー関連の品目の小売価格は、元となる原油や石油ガス類の輸入価格と期間を空けずに連動する品目もあれば、期間を空けて連動する品目もあることが分かりました。

【動向編コラム2】ビール系飲料の価格及び消費の動向

2020年は、10月に酒税の改正*がありました。この改正では、「発泡酒」の税率は据え置かれた一方、「ビール」の税率が引き下げられ、「ビール風アルコール飲料」の税率は引き上げられました。そこで今回は、これらのビール系飲料に着目し、酒税改正前後の価格動向とともに、背景となる消費動向についても確認します。

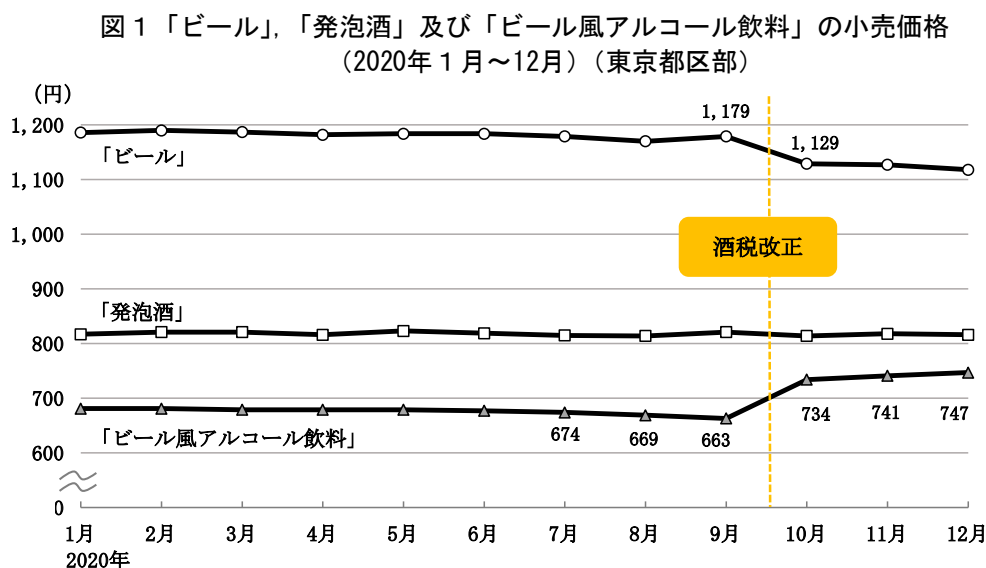
小売価格の動き

酒税が引き下げられた「ビール」の小売価格をみると、10月のみ価格が大きく変動（下落）し、他の月は変動が小さいことが確認できます。

酒税が引き上げられた「ビール風アルコール飲料」の小売価格をみると、「ビール」と同様に10月の価格が大きく変動（上昇）しています。また、改正前の7月から9月にかけて、緩やかな下落傾向がみられます。さらに、改正後の11月から12月にかけては、緩やかな上昇傾向がみられます。

なお、税率が据え置かれた「発泡酒」は、小売価格に大きな変動はみられません。

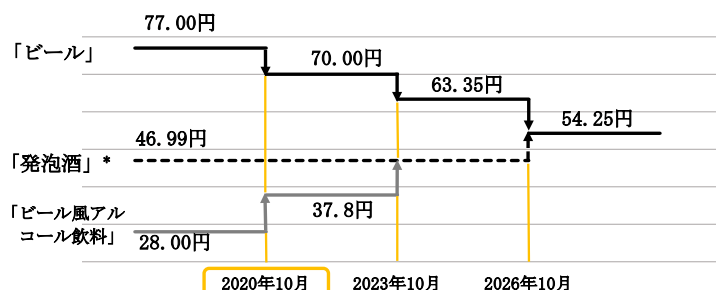
(図1)



「ビール」：淡色，缶入り（350mL入り），6缶パック
 「発泡酒」：麦芽使用率25%未満，缶入り（350mL入り），6缶パック
 「ビール風アルコール飲料」：新ジャンル（その他の醸造酒（発泡性）又はリキュール（発泡性）），缶入り（350mL入り），6缶パック

出典：小売物価統計調査（動向編）東京都区部の平均価格（総務省統計局）

※ 酒税改正の概要図（ビール系飲料，350mL換算）



* 麦芽比率25%未満の発泡酒に係る税率

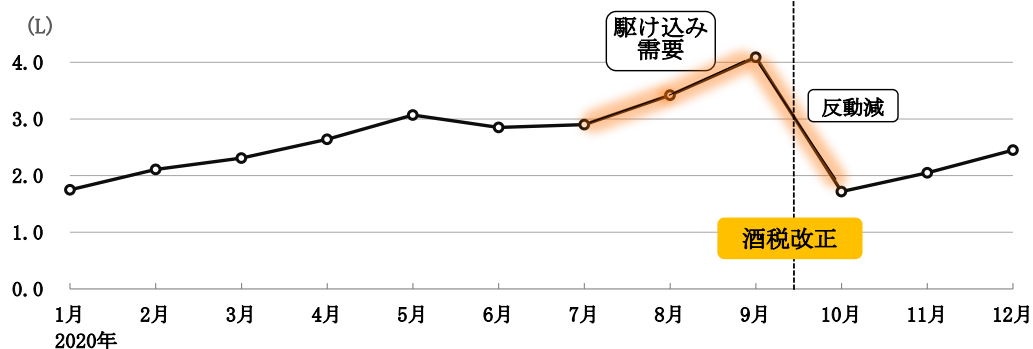
消費の動き

次に、酒税改正前後で小売価格が大きく上昇した「ビール風アルコール飲料」について、消費（世帯の購入数量）の動きを家計調査の結果から確認します。ただし、家計調査では「ビール風アルコール飲料」のみの分類がないため、「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の分類の結果をみることにします。

「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の購入数量は、改正前の7月から9月にかけて増加し、改正後の10月には大きく減少していることから、駆け込み需要と反動減があった状況が確認できます。

(図2)

図2 「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の購入数量（2020年1月～12月）（全国）



出典：家計調査（二人以上の世帯）全国の結果（総務省統計局）

今後、酒税は2023年10月及び2026年10月にも改正されます。その際も今回と同様に、小売価格及び消費（世帯の購入数量）に影響が出るかもしれません。